



議会だより

ココノエ

No.1111

2015.10.17発行

発行／九重町議会
編集／議会広報特別委員会
平成27年10月17日
〒879-4895 大分県玖珠郡九重町大字後野上8番地の1
☎0973-76-3812 FAX(0973-76-3809)
✉メールアドレス(議会事務局) gikai@town.kokonoe.lg.jp

県体・議員ソフト準優勝(玖珠郡)

9月定例会

- 平成27年度 第3回定例会 P.2
- 常任委員会報告 P.4
- 平成26年度各種会計決算を認定 P.6
- 九重町まち、ひと、しごと総合戦略
提言書を提出 P.8
- 一般質問 5名 P.10
- わたしのひとこと P.15

東飯田 下旦鈞 井上 陽昌
南山田 串野下 榎木 恵美

平成27年 第3回定例会

本定例会は9月2日から25日までの24日間開催されました。
議案18件、報告2件、陳情2件、請願1件を慎重審議しました。

平成27年度一般会計補正予算(第2号)

補正額	497万2千円減額
補正後の額	83億1,130万7千円

◆ 補正予算ピックアップ ◆

歳入

繰越金（平成26年度決算剰余金の2分の1） 1億6,514万3千円

公共建築物等地域材利用促進事業補助金の活用 補助金 2億2,000万円

この事業は、市町村などが公共建築物等を建設するときに地域材を利用することに対して大分県が補助する制度です。

公共建築物等を利用する多くの県民・町民に木と触れあい、木の良さを実感する機会を幅広く提供することを目的としています。さらに林業の振興や林業関係者の育成という一面もあります。

平成26年度に建設しました飯田こども園もこの補助事業を活用しました。現在、建設中の総合こども園（仮称）に対する補助金は約2億2,000万円です。

木のぬくもりや香りの漂う施設で就業前の教育や保育、各種子育て支援施策の実施を望みます。

歳出

○動植物生息調査事業委託（地方創生） 2,400千円

（観光誘致の一環として、町内動植物の生息調査を行います。）

○繁殖雌牛基盤拡大事業補助金 4,900千円

○おおいた豊後牛品質向上対策事業補助金 2,200千円

○柔道世界選手権優勝記念イベント他 1,500千円

○旧飯田中体育館耐震設計委託 3,100千円

○ハザードマップ印刷製本費 3,100千円

（災害対策として、各行政区ごとの防災マップを作成、配布します。）

町過疎地域自立促進計画の一部を改正



旧飯田中学校体育館

過疎地域自立促進計画に次を加えました。

- 南山田地区体育館耐震工事
- 飯田地区体育館耐震工事



旧南山田中学校体育館

〈追加の理由〉

町の計画では、南山田地区体育館耐震工事は28年度に、飯田地区体育館耐震工事は29年度に実施することになっていましたが、県の社会資本整備総合交付金について、27年度分の予算枠があるということで、2施設の耐震化工事を前倒しして、27年度に実施するために、過疎地域自立促進計画に追加されたものです。

12月議会で、工事請負費の予算計上を行い、契約は繰越。

議 意見書の提出

本町議会より「ヘイトスピーチ対策について法整備を含む強化策を求める意見書」を、内閣総理大臣、法務大臣、外務大臣宛てに提出しました。

※ヘイトスピーチ（一部の国や民族、あるいは特定の外国人を排斥する差別扇動デモ）

県、町村議長会

議員研修報告

日出町

● 議会の目的

活発な議論は大事だが、大学や研修所ではなく、議会は、住民のためになるかどうかを判断するのが目的

● 議会の活動

議員の価値は平等、誰が言った意見か？では無く、発言の内容によって判断せねばならない

● 住民の期待に応える

議員は「支援者以外の意向」を確認することが大切。住民が知りたい事と、議会が知らせたい事が、ずれていないか。

議会の公務として、任期4年間の実績報告をすべき

● 活動を住民に知らせる

「議会だより」と「町報」の違いは何なのか。終わった事を、知らせるより、予告編のほうが、おもしろい。

記述したとおり、基本的

な内容を、内閣府の世論調査などを、引用しながら、議員として、議会としてのあべき姿、住民満足度を高めるための研修でした。

当り前のこと、しかし、時々、研修に参加し、当り前のことが、できているのか、再度、気を引きしめる大切な機会となりました。

県、町村議会議長会とは？

県内の自治体で市を除く、町と村である議会で構成されています。

平成の大合併前は47町村ありましたが、現在では、わずか4町村となりました。

◎日出町 ◎玖珠町 ◎姫島村 ◎九重町

総務建設産業常任委員会

審査報告

議案 3 件

請願 1 件

陳情 1 件

可決された議案

道路認定について

町道大下松山線から分岐した延長25mの区間を第2回定例会で認定を求める陳情を採択したものであり可決しました。

九重町小規模給水施設普及支援事業分担金徴収条例の制定について

町内の飲料水の水質不良などの水問題の解決を図るために、県事業の小規模給水施設普及支援事業を活用し、町が事業を行う制度を取り入れるもので、事業にかかる分担金の徴収に関し必要な事項を制定するものであり可決しました。



集落の飲料水施設



マイナンバー通知カード

九重町個人情報保護条例の一部改正について

「行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律」施行に伴い、個人番号を含む個人情報取り扱いに関する規定を設け、併せて、九重町個人情報保護条例に規定する個人情報の範囲を広げ、特定個人情報を保護するものであり、国の行政機関が講ずることとされている措置の趣旨を踏まえ、地方公共団体が必要な措置を講じるために、町が保有する特定個人情報の取り扱いに関する規定を新たに設けるものであり可決しました。

みなさんの請願はこうなりました。

ヘイトスピーチ対策について法整備を含む強化策を求める請願について

在日韓国人・朝鮮人等を標的としたヘイトスピーチ（差別扇動デモ）が国内で頻繁に起こっており、人種差別として国際社会においても問題視されています。町も部落差別



なるほど“ザ”人権講座

をはじめとするあらゆる差別の撤廃を求めて運動を進めていることから、外国人の生命と安全を脅かす行動が一日も早く根絶されることを願うものであり、国の関係機関に速やかな解決を求めて意見書を提出することとなりました。

みなさんの陳情はこうなりました。

飯田養豚場建設反対を求める陳情について

養豚場建設に伴い、水田への水不足、河川の水質悪化、悪臭、風評被害等により農業や観光に大きなダメージを受けることへの反対陳情であり、趣旨は理解できるものの、町としても農業への企業参入も進めていることから、十分な調査議論が必要とされます。よって申請者から計画説明をうけ関係機関とも協議を行い慎重に審議するために継続審査としました。

教育民生観光常任委員会

審査報告

議案
1 件

可決された議案

お知らせ

手数料徴収条例の 一部改正について

マイナンバー制度の開始に伴い、27年10月5日以降、各自に郵送される、カード申請に必要な「通知カード」。

28年1月から、通知カードと申請書によって、発行される「個人番号カード」を、紛失や、汚損により、再交付する際の、手数料を条例に加えるものです。

手数料の金額については

○通知カード 五百円

○個人番号カード 八百円

です。

料金設定については、再発行に係る経費の原価である事も、委員会として確認したものであり、条例の一部改正については、必要であると認め、可決しました。

教育

学園構想とは

国は一定規模以下の学校の統廃合を「速やかに検討する必要がある」と明記。

一方で一定の条件により小規模校を残す選択も「尊重される必要がある」としました。

九重町としては、現在の小規模校を維持しつつ、必要に応じ、学校間の合同授業や行事に取り組めないか、又、個々の子どもに、どんな15才の春を迎えさせたいのか、各学校で共通目標を持てないのか等々、現状の学校配置しながら、町内全校を、一つのチームにする様なイメージ（筆者の）が

学園構想。

委員からは、統廃合の布石を懸念する声、必要性を疑問視する声もあり、内部検討を深めることを求めました。

民生

お助けリーダー

補正予算において「お助けリーダー」の養成が決定しました。

これは、地域の高齢者等を地域で見守る、そして、そのリーダー的役割を果たす人を、各行政区に養成し

ていくものです。

見守り等を区長や民生委員等をお願いするだけでなく、細やかな配慮の面から、女性を中心に、必要に応じ、複数人で、積極的な、協力を預ければと思います。

高齢になっても住みやすいまちにするために貴方の地区でも、検討してみませんか。

健康寿命

町では、様々な病気を防ぐことと、介護予防に力を入れていきます。

長期計画を策定し、町民の健康を守り、元気で長寿を楽しめるための施策です。

今年度の新たな取組みとして、モデル地区を設け、週一回体操を続け、筋力、体力を向上させ、健康寿命を延ばす事業を行っています。今後はモデル地区のデータを参考に、地



地域の方々とふれあう運動会(淮園小学校)

観光

観光協会と意見交換

8月27日、町観光協会の役員と意見交換を行いました。課題である、宿泊者の増加を目指し、大吊橋やスポーツ合宿の来町者の対応策や、吊橋の来場者を、町内へ誘客する手法を探る必要もありそうです。協会と力を合わせると共に、協会の一層の努力も、お願いしました。



ひとり暮らし「朗人」の会(東飯田地区)

平成26年度 各種会計決算を認定

特別委員会を設置

第3回定例会において、議長、議選監査委員を除く議員11名による決算審査特別委員会を設置し、4日間にわたり審査しました。

審査に当たっては、議決した趣旨と目的に従い適正にまた効果的に執行されているかを中心に審査しました。

本会議において委員長が審査結果の報告を行い、各種会計決算を認定しました。

平成26年度 各会計別決算額の状況

(単位:千円)

会計名称	歳入総額	歳出総額	差引額
一般会計	7,761,155	7,366,694	394,461
国民健康保険特別会計	1,609,689	1,601,585	8,104
水道特別会計	111,947	105,834	6,113
飯田高原診療所特別会計	69,225	67,308	1,917
介護保険特別会計	1,446,363	1,397,144	49,219
介護サービス事業特別会計	26,412	24,318	2,094
後期高齢者医療特別会計	127,989	127,901	88

一般会計収入未済総額（滞納金）

税目	25年度末	26年度末	増減
町税	8,869万8千円	9,000万4千円	130万6千円
分担金・負担金	165万6千円	152万5千円	△13万1千円
使用料・手数料	1,325万2千円	1,814万4千円	516万2千円
財産収入	459万7千円	473万8千円	△14万1千円
諸収入	389万7千円	6,516万2千円	6,126万5千円
合計	1億1,210万2千円	1億7,957万1千円	6,746万9千円

MEMO

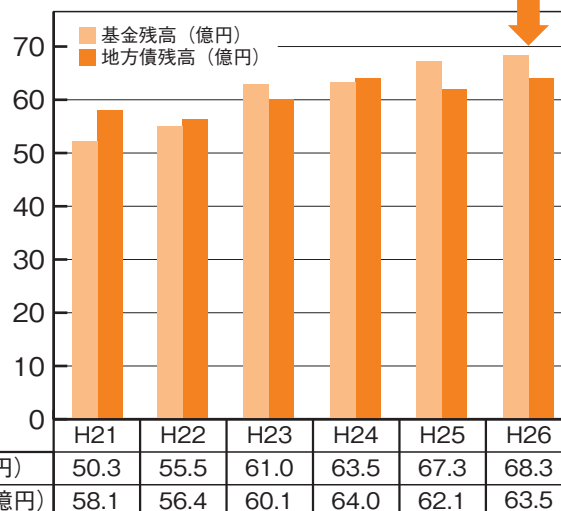
収入未済額が大幅に増額になっている理由

平成26年度分から一般会計に繰り入れた同和住宅貸付事業特別会計の分が、これに多額含まれているため。

普通会計に属する基金残高と 地方債残高の推移

平成26年度末

基金(貯金)残高 68億3千万円
地方債(借金)残高 63億5千万円



決算認定にあたっての付帯意見

収入未済について

一般会計では、町税、使用料、負担金、諸収入等の収入未済額が1億7,957万1千円で、平成25年度分より6,746万9千円増加していますが、平成26年度分から一般会計に繰り入れた同和住宅資金貸付事業特別会計の分を差し引きますと、562万1千円の減少となっており、収入率も92.33%と改善されています。

特別会計では、全体の収入率は97.82%と平成25年度分よりも改善されています。これらのことについては、担当課、職員が大変な努力をされている成果であることが認められます。今後も納税者等の不公平が生じないよう、また町の収入確保のために引き続き滞納整理対策の強化に努めるように要望しました。

不用額について

不用額の多くは、予算の目的を達成しながら節約や工夫によって生じたものや、災害等に備えてのものがほとんどですが、中には予算そのものの見積りが過大であるものもあります。

予算編成にあたっては、必要な予算を厳選して計上し、計上した予算は特別な理由がない限り計画的に着実に執行することを要望します。

まだ、年度途中で不用額になることが決まった場合は、できるだけ早期に減額補正を行い他の目的に有効利用することを望みます。

補助事業について

補助金交付制度や補助事業については、広報紙で周知・公開していると思いますが、その内容については知らない町民も多いように感じています。広報紙だけでなく、ケーブルテレビやホームページ等を活用し、周知を徹底していただきたいと思います。

財政運営と今後の課題について

- ・年々増加している国民健康保険の医療費や介護保険の給付費を抑えることが必要であり、生活習慣病等の病気にかからないための指導や要介護者をつくらない介護予防の取り組みを強化していくことが大事であると考えます。
- ・スクールバス、コミュニティバス、路線バス、これらの地域交通をバラバラではなく、早急に一本化した地域交通体系を構築することにより、町内雇用の確保、財政負担の軽減、住民の利便性の向上につながる取り組みを早急に行うことが必要であると考えます。
- ・わが町の基幹産業である農業や観光の、今後5年・10年先を見据えた長期的な政策の取り組みが望まれます。

ワン ポイント

決算における
収入未済とは

税金や給食費などの滞納金
がほとんどを占めます。

決算における
不用額とは

予算と実際事業した経費の差額。
入札や節約、工夫により残った額を言います。

九重町

まち、ひと、しごとと総合戦略

議会がまとめた提言書を提出



議員も参加！地方創生・地区説明会

今回の総合戦略において、議会が提言まで踏み込んだ要因は、「九重町の総人口が来年には一万人を割り込むことが予想されること」、「若者の定住が進まなければ地域を支えることが厳しくなると判断したこと」によります。

策定にあたっては、「住民、産、官、金、労、言」の参画が必要であり、地域住民の生活の安定と、福祉向上を目指すべきと判断しました。

4本の柱を中心に、企業誘致、大学や団体との連携、空き家・宅地・農地の幹旋、観光施設の増客、婚活支援、住宅の確保、交通弱者対策、財源の確保について提言しました。

総合戦略は、住民との協働が重要なことから合意形成を図ること、総合的なサイクルを好循環するためには、スタートが大切と考え、「住民と共に」をキーワードに、総合戦略を議会できちんとまとめ、九月八日に、町長に提言書を提出しました。

【総合戦略4本の柱とは】

- 1 九重町における安定した雇用を創出する施策
- 2 九重町への新しいひとの流れをつくる施策
- 3 若い世代の結婚、出産、子育ての希望をかなえる施策
- 4 時代に合った地域づくり、安心なくらしを守るとともに、地域と地域を連携する施策

議会の取り組み

将来的な財政計画を見据えて

今回の「地方創生」を実行するうえで欠かせないのが、財源であり、今後の総合戦略の計画は、5年が一つの目途となります。財源がなくなつてからやめると言うわけにはいかなくなり、将来に渡って「持続可能なまちづくり」を推進するうえで、財源の確保等について、特別委員会にて慎重審議の結果を議長に提言をすることいたしました。

提言書提出まで

地方創生特別委員会を

8回開く

● 第1回・6月29日、「地

方創生総合戦略」策定に向けて

● 第2回・7月9日、地方創生の事業提案について

● 第3回・7月17日、第4回・7月22日、地方創生議員提言について

● 第5回・7月28日、第6回・8月17日、地方創生議員提言の取り纏め

● 第7回・8月20日、総合戦略に向けて、特別委員会としての提言

● 第8回・8月26日、総合戦略に向けて、特別委員会としての提言書作成

● 9月8日、町長に提言書を提出



提言書を町長に提出

お待ちしております お出かけ議会

各会場・午後7時開催
議員が2班に分かれ
皆様をお待ちしています

11月21日（土曜日）

東飯田公民館
飯田交流センター

11月22日（日曜日）

南山田公民館
野上公民館



経産牛の部に出品する岡嶋建一郎さん



第一区に出品する森俊幸さんのふじふく

第14回全日本ホルスタイン共進会「北海道大会」に九重町から2頭出品

大分県畜産品評会（和牛）に九重町から8頭が出品

大分県最終選抜審査が9月26日に玖珠家畜市場で行われ、県内から5頭が全国大会に出場、内2頭が九重町の岡嶋建一郎さん飼育のヒルアイランド スパーク

10月23日に大分県畜産品評会が別府市で開催され町内から次の8頭が出品されます。

- 第1区 ふじふく
飯田奥郷 森 俊幸
- 第2区 うえ7881
飯田中村 矢方盛士
- 第2区 ひかり
飯田奥郷 時松賢一郎
- 第3区 ふくさくら
飯田北方 甲斐源平
- 第3区 わかふく4
南山田横尾 日隈昌弘
- 第4区 はやみず2
飯田須久保 宮崎洋市
- 第5区 さだすえ222
南山田後河内 佐藤真由
- 第5区 あじさい6
飯田奥郷 時松とし子

祝

準優勝 県体・議員ソフト（玖珠郡チーム）

スコア表



ナイスバッティング

一回戦：野口原ソフトボール場（9月12日10：30～）

チーム名	1	2	3	4	5	計
臼杵市	1	0	0	6	-	7
玖珠郡	10	2	0	x	-	15

二回戦：野口原ソフトボール場（9月12日13：10～）

チーム名	1	2	3	4	5	計
玖珠郡	0	0	1	2	1	4
速見郡	0	0	2	0	1	3

三回戦：野口原ソフトボール場（9月12日14：30～）

チーム名	1	2	3	4	5	計
玖珠郡	0	2	0	0	2	4
大分市	0	0	1	2	0	3

準決勝戦：野口原ソフトボール場（9月13日9：00～）

チーム名	1	2	3	4	5	計
玖珠郡	6	3	1	0	7	17
中津市	0	2	0	0	1	3

決勝戦：野口原ソフトボール場（9月13日13：10～）

チーム名	1	2	3	4	5	計
玖珠郡	0	2	0	0	0	2
県議会	4	0	2	0	x	6

玖珠町と合同チームで参戦
毎年、開催される、大分県民・体育大会に、我々議会も、毎回玖珠町と合同で、参加しています。
今年は、県体女子チームとの練習試合も行い、当日に備えました。
大会初日は、昨年、一昨年の優勝チームと激戦、共に1点差を競う試合で見事に4強入りを達成。
2日目も大善戦したものの、若さとパワーの県議会に決勝で敗れましたが、24年の第3位を上回る、見事準優勝の快挙を成し遂げました。

ずばり町政を問う

5名が一般質問

◆耕作放棄地問題 宝^が来^る地プロジェクト提案

ハウ キ チ

.....システムを作り、やってみたい



佐藤 明郎

佐藤 解消できない放棄地、原因を、どう分析してる。

町長 労力不足、立地条件、収益性、この3点が大きな課題であり、現実的に復元は困難だと思う。

●連携大学に可能性あり

佐藤 我町は、4つの大学と連携協定を結んでいる。充実した学生食堂を数多く有し、莫大な食材を消費している。学生との交流の可能性もあり、食材供給先として、研究する価値あり。

町長 様々な課題があると思うが、関係課と連携しながら、検討していきたい。

●町の目標、交流人口 2万人に放棄地活用を

佐藤 都市部に住む人達との交流の手段として活用できないか。

町長 手法として、観光農園が考えられるが、多額の財源が必要であり、農地の団地化ができるかが課題。放棄地が点在している現実がある。

佐藤 点在しているからこ

そ、団地化もせず、投資もせず交流人口を増やす可能性はある。

町も移動時間一時間圏内の福岡を交流人口のターゲットと据えている。退職した方々、子育て中の家庭などは、小面積の畑を希望する声が多いと聞く。

●観光プラス自分の畑

土地所有者にも、町観光にも、メリットは大きい。

町長 地方創生の中で、そのようなことが出来ないか、担当課に指示をしている。

佐藤 健康寿命、高齢者の生きがいに活用も含め、プロジェクト組織を作るべき。

町長 連携大学については働きかけを行い、交流人口と放棄地を結ぶ手段も考えられる。

システムとして、作り上げて検討したい。

提案したプロジェクト案

誰が耕作する

- *福岡など都市圏の希望者
企業OB、食育子育て世帯
- *連携大学生
- *介護予防教室の屋外版
- *組織化による管理、耕作

安定した供給先

- *農協との連携による直販
- *町内接客施設、介護施設、給食センター
- *連携大学の学食材料
- *六次産業定着のための、材料安定供給
- *組織化による新規開拓

耕作放棄地 問題

ハウキチ
宝の来る地
プロジェクト

誰が指導や手伝いを

- *地元高齢者の技術と知恵を借りる
- *農業委員会
- *まちづくり協議会との協議
- *組織化による円滑化

プロジェクトのメリット

- *土地所有者の負担軽減
- *イノシシ、鹿対策
- *交流人口の増加
- *宿泊客の増加
- *若者の出会いの場に活用
- *シルバー世代の生きがい、介護予防
- *農業全般への波及効果
- *組織化による安定雇用

佐藤 太治



- ◆ 災害対策について 電源は発電機で対応している
- ◆ 各地区の運動施設について 使用方法を考える
- ◆ 大吊橋について 第2弾を出していきたい
- ◆ 耕作放棄地について 国、県の補助金は対象がない



緑陽中学校に設置した太陽光発電

● 災害対策について

佐藤 町内の危険箇所はどれくらいあるか。

町長 毎年4月に消防団を通じてパトロールして確認した箇所は、土砂崩が10箇所、水害関係が3箇所、戸数については25である。

佐藤 災害時の避難場所は適当で安全か。

町長 避難場所は24カ所ありすべてが公共施設で、学校については耐震化が済んでいる。各地区の公民館は老朽化が進んで、100%安全とは言えない。

佐藤 避難場所に安全、安心のために、太陽光発電と蓄電器を設置したらどうか。

町長 どここの町村をみても、発電機を持って準備をしている、今のところ発電機が一番良いのではないかと思っている。

● 運動施設について

佐藤 各地区グラウンドのナイター施設がスポーツをするには暗い、明るく出来ないか。

町長 平成17年に半分に減灯した野球やソフトは活きいきランドの野球場を利用してほしい、野球場の使用料を半額としている。

佐藤 テニスコートの進路路がわかりにくく通行しにくい。

町長 緑陽中学校が出来たため下から行く道は途絶えている。現在看板を設置したり切り返さず、廻れるよう検討している。

佐藤 多目的施設の申請が中学校の管理となつているので使用しづらい。管理方法は考えられないか。

町長 緑陽中学校ができ学

校施設と併用ということ

とで学校の授業と部活動を優先せざるをえない、多目的グラウンドが授業や部活動で、使用出来ないときは各地区グラウンドを使用するようお願いしたい。

● 大吊橋について

佐藤 今年の12月静岡県に長さでは日本一の吊橋が出来ることが現状のままで観光客の確保は出来るのか、今後の状況をどのように考えているか。

町長 長さは日本一でなくなるが、高さや景観は日本一だ。何とか5、60万人を維持するよう努力する。

佐藤 数年前に滝壺開発という話があったときが現在はどうなっているか。

町長 平成22年にコンサルタントに調査をさせたら5つの案がだされた、やるとすればエレベーターで下に降りて滝壺開発しかない、経費としてはエレベーターで10億円、滝壺



吊橋から見た震動の滝

開発に数億円と多額の費用がかかるが、しかし第2弾を出していかなければとは思っている。

佐藤 現在60万人もの観光客が来ている。60万人の半分の人がエレベーターで下に降りてくれたら採算にあうのはないか。開発を考えたらどうか。

町長 下に降りたら対岸に渡らなければならない、橋から滝まで300メートル位ある。道路も整備しなければならぬ。来る人の半分降りてくれれば良いが疑問に思っている。

◆防犯カメラで町民の安全を
..... 財政状況を見ながら行いたい

◆町の総合交通体系の計画は
..... 新たな運行方法を検討したい

藤原 三治



●防犯カメラの設置
状況と今後の計画は

藤原 全国で多発する凶悪な犯罪。事件解決に防犯カメラが大きな力を発揮している。町内の設置状況と、今後の増設の計画はどうなっているのか。

町長 民間の設置台数は不明だが、役場周辺と東飯田地区の計7台と、国道県道の7か所である。犯罪捜査の効果は理解するが、プライバシーの侵害問題などを考えると、自主パトロール組織などの育成に力を入れたい。

●弱者の見守り
犯罪の抑止にも

藤原 高齢化が進み、お年寄りの行方不明や、相次ぐ不審火による住宅の全焼事件も未解決であり、町外からの人の出入の多い町の状態を考えれば24時間中見守り可能な、防犯に強い町としてのイメージ作りになるのでは。

警察も積極的な取り組みを望んでおり、効果的な場所を協議して設置すべきだと考えるが。



町で設置している防犯カメラ

町長 抑止力にはなると思うが、地元の要望があれば、1基2百万円の事業なので、財政状況を見ながら計画的にやっていかねばと考えている。

藤原 警察の話によれば、四方向のカメラで百万円以内、さらに1/2補助も用意しているとの事であり、いっどこで起きるかかわからない事件や犯罪に対し、青少年の非行防止の心の鍵にもなるのではないか。全国

でもずば抜けて高い大分県警のカメラの映像技術と1/2補助、一個人を監視するものではなく、犯罪の抑止効果を考えて設置の方向で前向きに考えて欲しい。

教育長 全国で学校の防犯カメラの設置は7割を超えており、子どもを守る視点から言えば、これまでなかったからではなく、最悪の事態を考慮し、予算を考えて、計画的に設置できればと考えている。

●町の総合交通体系
の見直しは

藤原 コミバス、路線バス、スクールバスの運営に對する、今後の町の考えを聞く。

町長 コミバス、路線バスの運行だけで、7944万円を計上している。別に計画していることも園を含むスクールバスの委託があり、3年目の来年から新たな契約となり、経費の削減を含めて、新たな運行方法を検討している。

●デマンド方式の
バス運行方法は
考えられないか

藤原 空のバス走行を無くし行きたいところへ行くバス、電話やファックスなどで予約できるデマンドバスで効果が上がっている町村もある。町民の声を聴き、最善の方法を尽くして経費節減、町民も町もすべて良い方法を考えてもらいたい。



待機中のバス

町長 デマンド運行も考えた上でコミバスを選択してきたが、利用客が少なく、今後は運転手の空き時間を使い予約を取って必要な時に運行する方法も考えた

大津留
敏加



◆行政区の再編(高齢化)の取組みは
.....地域からの要望はなかった

◆駅伝コース内の町道拡幅は
.....計画的に取り組む

地区別高齢化状況

(平成27年3月31日現在)

地区名		東飯田	野上	飯田	南山田	合計
行政区	数	35	36	29	40	140
人口	人	2,714	2,371	1,933	3,166	10,148
人口比率	%	26.6	23.3	19.0	31.1	100
65歳以上	人	979	903	758	1,257	3,897
高齢化率	%	36.1	38.1	39.2	39.7	38.3
限界集落	数	2	5	7	5	19

- 1.行政区数は、下旦7(シルバーランドメルヘン)、桐木5(亀鶴苑)が含まれる
- 2.限界集落とは、65歳以上の人々が人口の50%以上を占めている行政区をいう
- 3.高齢化率とは、65歳以上の人々が総人口に占める割合をいう



九州選抜高校駅伝大会

●行政区担当職員制の総括は

大津留 平成23年10月から2年間、行政区担当職員2名を限界集落等に配置をしたが、結果と結果に基づく今後の対策と行政区の再編をどのように考えているか。

町長 平成23年10月から平成25年3月まで、限界集落、

準限界集落に職員2名体制で28行政区に配置した。業務内容は行政情報の提供と行政区内の実態把握、配置の条件は役務の提供はしない。行政区からは役務の提供が主眼であり、町が思っていたよりも行政機能の低下は無かった。再編については、議員質問があり、区長理事会に提案をしたが、区長から反応はなかった。

●スポーツ観光 千町無田駅伝コース

大津留 町の大きな観光資源のひとつである。飯田高原の千町無田駅伝コースのスポーツ観光をどのように考えているか。

町長 このコースは、実業団や高校生が多く訪れている。町として、スポーツツーリズムをひとつの大きな政策としてとらえ、町の観光協会と議論を進めている。

●駅伝コースの一部道路拡幅は

大津留 千町無田駅伝コースの内に町道旭開拓年の神線がある、この町道は地区の生活道路でもあり、マラソン、駅伝の練習コースでもある。一部に幅員が狭い箇所がある改善できないか

町長 町道の一部に幅員が狭い箇所がある。この道路は重要なマラソン、駅伝の実業団や高校生の練習コースである。改良には、いろんな手続きが必要になるが、計画を立てて取り組む。



幅員の狭い周回コース

◆ 町100%出資会社、決意は

.....大きな取り組み、早期に

◆ 「このえ学園構想」、小学校統廃合でなく

.....とりあえず現状維持で連携を

◆ 婚活一九重女子に町外の男性を募集したら

.....色んな取り組みを検討



増田 裕子

● これからの九重町「小さくてもキラリと光る」ための突破口となるか

増田 「町100%出資会社」とは。

町長 町が100%出資すること、町の意向を十分に反映させながら運営する株式会社と考えている。

泉水キャンプ場や文化センター、吊り橋などの管理運営を委託し、新たな雇用、安定雇用の場を確保したい。

増田 雇用や観光・農林業等の町づくりにおける課題を解決する突破口になるか。

町長 将来的には農業など色んな取り組みができればと考えている。役場ではできない地元優先の雇用や、住民のニーズに対応できるよう、皆さまの了解が得られれば、早期に取り組んでいきたい。

増田 役場と対等の



活力ある野矢小学校の児童会

パートナーである会社では、人材確保が重要。天下り等、一切なく全く役場と違う発想で経営しなければならぬが、課題と覚悟は。

町長 外部の人材を活用しながら目指していきたい。大変な仕事だと思っている。

増田 命運をかけての取り組み、今から住民と丁寧には。話し合う必要があるのでは。

町長 総合戦略の説明会を各4地区回るが、この問題に限って再度説明にあがるのも一つの方法と考える。

増田 地方創生、九重町としてはどう取り組むか。

町長 町としてはもう10年も前から考えていること。

第4次総合計画の中間評価を28年度末、29年度当初で行い、町としては、今住んでいる人たちの幸福感を満たしていくことが最重大責務と感じている。

● 国や県がどう言おうとも九重町は小学校を地区に残すというような姿勢を

増田 「このえ学園構想」の意図は。第2次学校再編整備計画に基づくか。

教育長 中学校は既に1校なので、小学校は統廃合に関して再編計画に基づく。

とりあえず6校だが、将来各地区1校。1学級30人をめざす九重町の適正規模を軸に、ゼロ歳から15歳までをつなぐ切れ目のない教育課程編成を提起している。

増田 国や県の提起する「適正規模」ではなく、九重町独自の小規模で今後どうするか、とりあえずではない。

計画を立てるべきでは。
教育長 様々な課題に対応するためにも、この学園構想が必要と設定し、現場にも呼び掛けている。



地域一帯となった淮園小学校の運動会

● 婚活の取り組みについて

増田 町内の女性に町外の男性を募集する、女性中心の企画もやってみては。

町長 提案をいただきながら、また九重町だけじゃなく玖珠郡という広い視野で婚活も取り組んでいきたい。

あたしのひとこと

九重町の魅力をアジアへ

東飯田 下旦鈞
井上 陽昌さん



ここ数年観光業で働く中で、アジアからの観光客と接することが増えました。旅行好きの私は、自分の足で世界を歩くことで、受け入れる立場だけでなく、旅人の気持ちになつて接することの大切さを感じます。

ミヤマキリシマや紅葉、そして冬景色等、普段生活している中であたりまえのように移り変わる四季の光景は、外国人観光客にとっては今まで見たこともないすばらしい景色に見えているでしょう。東南アジアの人からすれ

ば、九重スキー場はもともと近い雪を体験できる場所であり、紅葉を見れるのも気温差の大きい九重町ならではです。

九重町ではオルレコースの整備等がなされてきているわけですが、一時のブームで終わらず、一度来た人が又来たくなるような町にしていかなければなりません。最初はツアーで来た人も二度目三度目は、レンタカーや公共交通機関を使って家族や仲間と来るものです。私の提案としては、今九重町独自でやっている周遊観光バスを湯布院や久住等と協力して利用者の立場に立ったものにする事です。

観光地や幹線道路沿いの飲食店で外国語のメニューがある所、ベジタリアン対応ができる所等、外国人旅行者が必要とする情報を発信することで、日本語の読めない外国人も安心して旅行できる環境を整えれば、地域の振興にもつながると思います。

仲間とバレーボール

南山田 串野下
株木 恵美さん



年齢も環境も違う者達だが、同じユニフォームを着てコートに立つ。はいつくばつてレシーブしたボールを、トスへ、アタックへと、繁いいき、相手コートに落ちた時の喜び、仲間を感じる瞬間が、たまらない!!今迄どれだけの仲間に出会い、支え合つて来た事だろう。チームで挑む勝負、一人で戦い抜く勝負、違いはあるけれどスポーツ最高。その後のビールがまた、たまらない。(笑)

8月初旬、宮城県で開催された、全国ママさんバレー

の大会に、県代表で参加しました。私達にとっては、悲願の出場でした。宮城は、まだまだ、さら地や仮設住宅が見受けられましたが、宮城のママさん達はとても元気に、私達を歓迎してくれました。年齢と共に体力は衰えるばかりですが、これからも頑張つてバレーを続けていきたいと思っています。大会出場の際は、多くの方々の御支援、御協力に、チーム一同感謝しています。ありがとうございます。



大分県大会で優勝したママさんバレー

昭和30年4ヵ町村が合併し
九重町となり新庁舎の前で
記念撮影する職員

傍聴へ どうぞ

次回は12月です

昭・32・11・26・

九重町役場庁舎落成記念



初代 武石邦雄 町長



町図書館所蔵「今昔写真帳」より

議会だよりについて
ご意見をお聞かせください。【議会事務局：76-3814】

編集 後記

◆今、全国のほとんどの自治体が、地方創生の「地方版総合戦略」（2019年までの5年間分）を、この10月末までに策定するとしてその作業を進めています。本町では、総合戦略の素案を9月14日に公表し、4地区での住民説明会やパブリックコメントでの意見、また、産・官・学・金の有識者による審議会や議会からの意見・提言を反映した総合戦略の成案が間もなく策定されます。

これから地方創生の本格的な取り組みが始まります。

「地方創生」は、取りつきにくい言葉ですが、内容は、町の人口減少を出来るだけゆるやかにするために最大限の努力をし、併せて、人口が減少しても成り立つ町、町民が安心して豊かな気持ちで暮らせる町づくりをすることだと思っています。

井上 里子

・広報委員長 大津留敏加
・副委員長 佐藤 明郎
・委員 井上 里子
・委員 小川 克巳
・委員 藤原 三治
・委員 有吉 富生